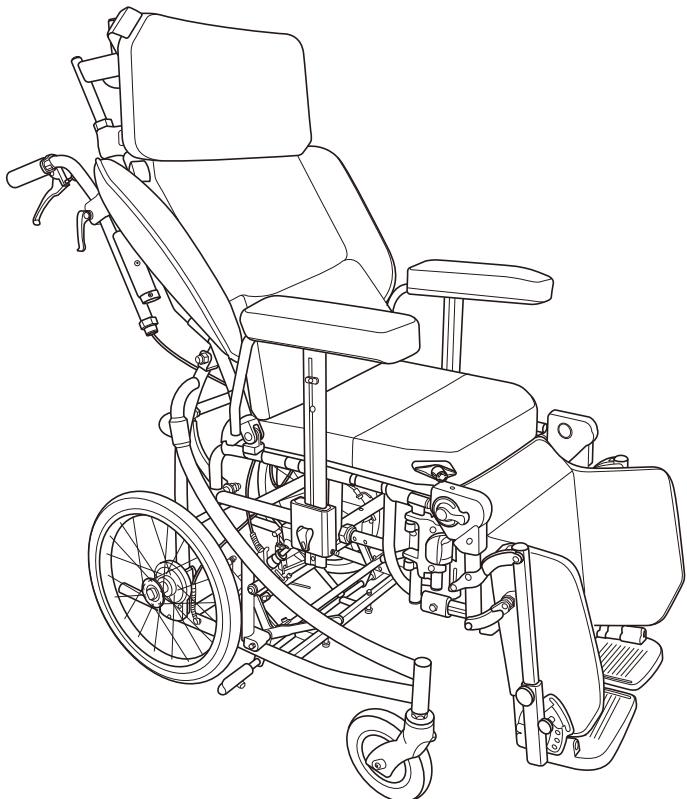


# エア・フィッツ モフィール

## 取扱説明書

介助型 AFP-MR



### はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。  
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。  
使用者の身体の状況・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

### 目 次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
クッション・カバーについて	6
ブレーキのかけかた	8
乗り降りのしかた	10
フット・レッグサポートの開閉・取り外し	11
各部の調節のしかた	12
シート奥行の調節	12
手押しハンドルの高さ・向き調節	13
アームサポートの高さ調節	13
ショルダーサポートの展開	14
クッションの空気圧調節	15
バックサポートの倒しかた・起こしかた (リクライニング機能)	16
フット・レッグサポートの角度調節 (エレベーティング機能)	17
フットサポートの高さ調節	17
フットサポートの角度調節	18
レッグサポートの位置調節	18
スロープヘッドサポートの 取り付け・取り外し・高さ調節	20
使用上のご注意	21
保守・点検	21
お手入れ・保管について	21
飛行機に搭乗される場合	22
走行上のご注意	22
車いすの持ち上げかた	22
困った時には	23
仕様	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

本書で使用している画像・イラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。  
製品向上のため、本書に記載している仕様の全部、または一部を予告なく変更することがあります。

# はじめにご確認ください

本製品ご購入後、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- |            |              |                                 |
|------------|--------------|---------------------------------|
| ・車いす本体     | ・スロープヘッドサポート | ・フット・レッグサポート(右・左)               |
| ・専用クッション   | ・専用カバー       | ・工具(スパナ2ヶ 六角レンチ5mm・4mm・3mm 各1ヶ) |
| ・取扱説明書(本書) | ・保証書         |                                 |

\*専用クッション、専用カバーの内訳については、P.6「クッション・カバーについて」参照

はじめてご使用になる際は、以下ページをお読みのうえ、付属品を車いす本体へ取り付けてください。

- ・P.6 クッション・カバーについて
- ・P.11 フット・レッグサポートの開閉・取り外し
- ・P.20 スロープヘッドサポートの取り付け・取り外し・高さ調節

## 使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。

本製品は手動式の介助用手動車いすです。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的(スポーツ・入浴など)のものではありません。

## 安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。

### 危険



スピードを出さないでください。  
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



リクライニングを倒した状態では、車いすの上で上体を起こしたり、立ち上がらないでください。

車いすの重心バランスが崩れて、転倒・転落の恐れがあります。



エスカレーター(車いす対応エスカレーター除く)や、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)でのご使用は絶対に行わないでください。

転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。



また、そのような状態では、絶対にリクライニングレバーの操作を行わないでください。  
座面が急激に下がり、事故やけがにつながる恐れがあります。

## ⚠ 危険

!  
急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

!  
乗り降りの際には、フットサポートに乗らないでください。

主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

!  
車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。

坂道等の傾斜のある場所では、フットブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

!  
乗り降りの際および停止時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。

ブレーキがかからっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

!  
クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。

!  
乗り降りの際に上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。  
けがをする恐れがあります。

!  
手押しハンドル、本体フレームに重いものを吊り下げる、入れないでください。  
過度の荷物はバランスを崩して、転倒する恐れがあります。

!  
制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。  
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

!  
車いすのフレーム構造を変更するような改造はしないでください。  
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。また、故障の原因となります。

!  
アームサポート、アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。  
アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

!  
リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出でていないことを十分に確認してから行ってください。  
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

!  
フットブレーキ(ペダル、レバー)、制動用ブレーキは定期的に安全点検を行ってください。  
(期間の目安：1ヶ月に一度)

!  
使用者を乗せたまま車いすを持ち上げるときは、必ずフットブレーキのペダルもしくはレバーを操作して、両輪にブレーキをかけて主輪とフレームを持ってください。

主輪とフレーム以外の部品を持つと、使用者の重みで部品が外れて使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

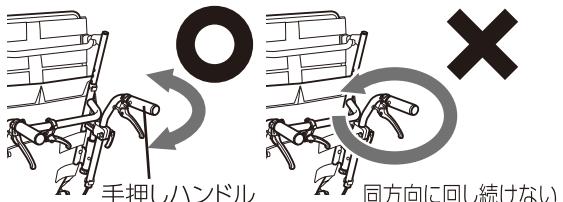
!  
各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。  
車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。

!  
タイヤの摩耗に注意してください。  
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

!  
走行中は、ショルダーサポートの開閉、アームサポートの上げ下げ、フット・レッグサポートの開閉、リクライニング操作等をしないでください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

!  
フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されていることを確認してください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

!  
手押しハンドルは、車いす本体の外側を往復するように操作してください。  
同方向(右回り、左回り)に回し続けて使用した場合、ブレーキワイヤーがよじれて、制動用ブレーキの動作不良やワイヤーの破損につながる恐れがあります。



## ⚠ 警告

🚫 前かがみの状態など、車いすの前方向へのみ体重をかけるような状況は、主輪が浮き上がり前方へ転倒する恐れがあります。

🚫 フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

🚫 走行中にフットブレーキのペダルもしくはレバーの操作をしないでください。  
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

## ⚠ 注意

🚫 この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

❗ 最大体重(積載物も含む)は100kgです。  
体重制限を守って使用してください。

🚫 走行中、身体を乗り出さないでください。  
走行の安全を損ない危険です。

❗ 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

🚫 フットサポートの下には足を入れないでください。  
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスターなどに足をぶつけつけがをする恐れがあります。

🚫 フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。  
けがをする恐れがあります。

❗ 使用する前に駆動輪(主輪)・キャスター・駐車用ブレーキ等のネジを点検して、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。  
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 車いすを自動車に載せる際および降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。  
車いすの破損や故障の原因となります。

🚫 シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。  
製品を傷める恐れがあります。

🚫 バックサポートを後ろに倒した状態で背面アウターシートには腰かけないでください。  
転倒によるけがや、車いすの破損の原因になります。

❗ アームサポートの高さを調整した後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。

❗ リクライニングおよびエレベーティング操作等を行う時には、フレームの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。

❗ 走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

🚫 暖房器具にタイヤを近づけないでください。  
  
エアータイヤの場合、タイヤの空気が膨張して、大きな音をたててパンクすることがあります。ハイポリマータイヤの場合、タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。

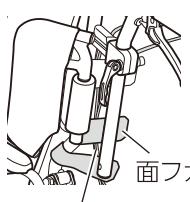
❗ 介助者が車いすを押すときは、必ず手押しハンドルのクイックリリースレバーが確実に固定されていることを確認してから行ってください。  
事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ 段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。  
車いすの破損や故障の原因となります。

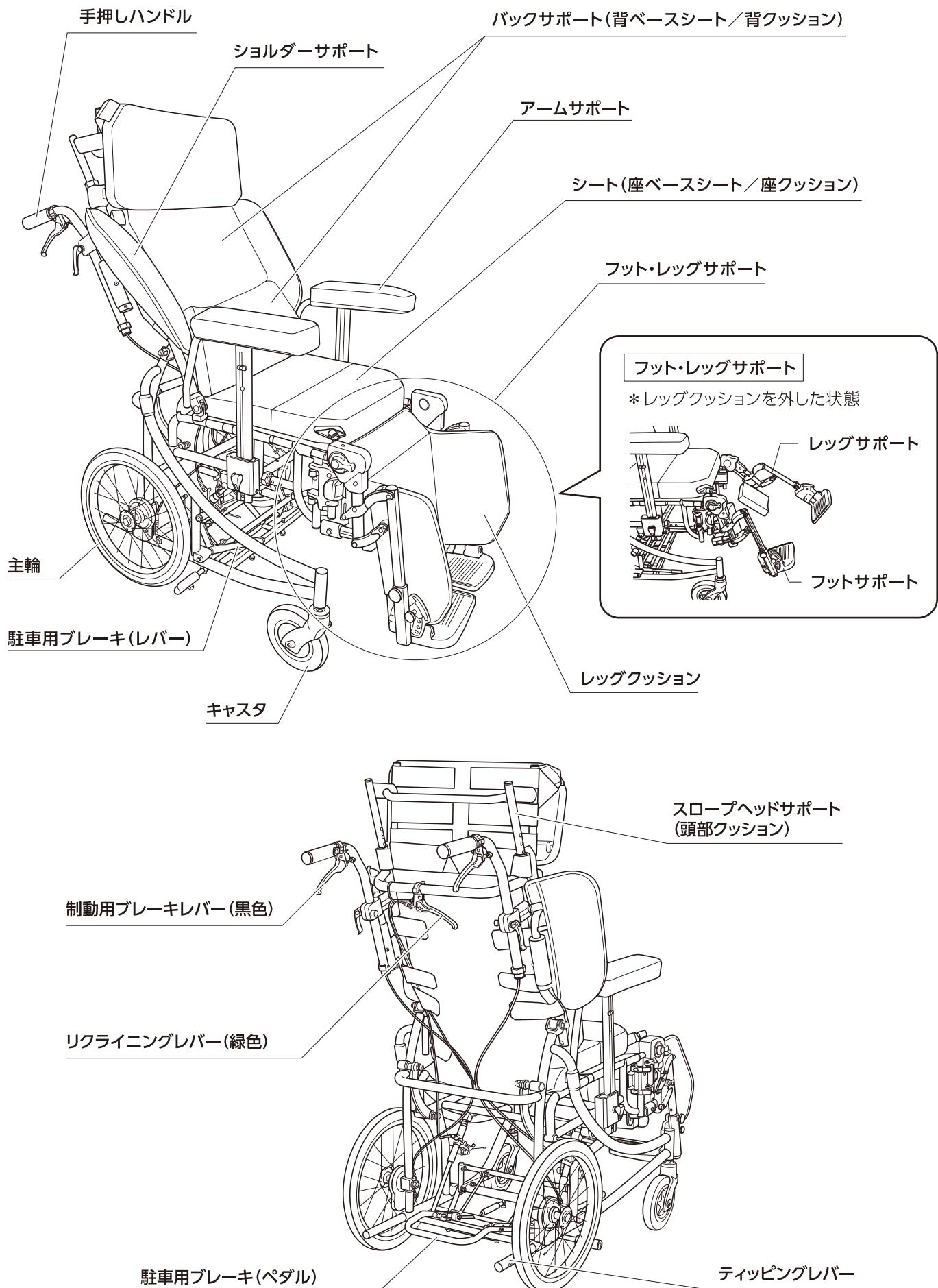
❗ 手押しハンドルは、クイックリリースのナットで固さを調整して、確実に固定されていることを確認して使用してください。

❗ フットサポート下面は地上より50mm以上あけた状態で使用してください。

❗ 介助者は、リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。

❗ リクライニングワイヤーは、背面インナーシートの面ファスナー中央2本で束ねてください。  
(初期設定)  
  
面ファスナー  
リクライニングワイヤー

# 各部のなまえ



# 使いかた

## クッション・カバーについて

本製品には、空気圧の調節が可能な専用クッションと、使用者の身体を保護するカバーが装着されています。通常はクッション・カバーを取り付けた状態で使用してください。

空気圧の調節については、該当ページをお読みください。

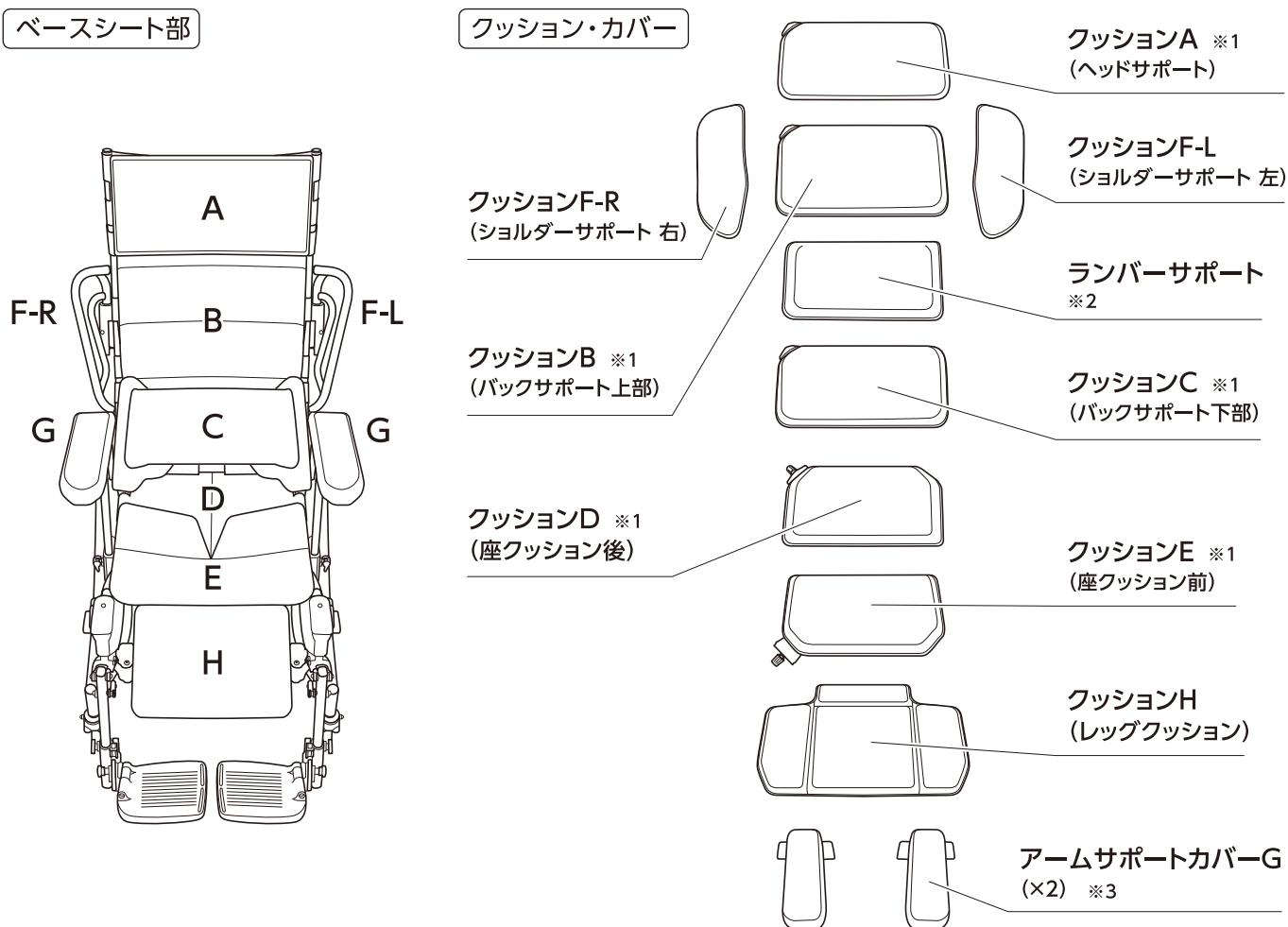
(P.15 「クッションの空気圧調節」参照)

⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none"><li>・クッション・カバーに過度の負担をかけないでください。</li><li>・刃物など、鋭利なものでクッション・カバーを傷つけないように注意してください。</li><li>・バルブ部分に強い負担や衝撃をかけないように注意してください。</li></ul>
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・クッション・カバーは摩擦などにより色落ち、色移りする場合があります。</li><li>・湿度の高い場所や室温の上がる場所、直射日光のある場所に放置しないでください。</li><li>・クッションの表面と面ファスナーのオスを貼り合わせないでください。毛羽立ちや破損の原因になります。</li><li>・長期間保管する場合は、クッション・カバーを車いすから外してください。</li><li>・クッションの空気を抜いた状態で長期間保管しないでください。正常な形状に戻らないことがあります。</li></ul>

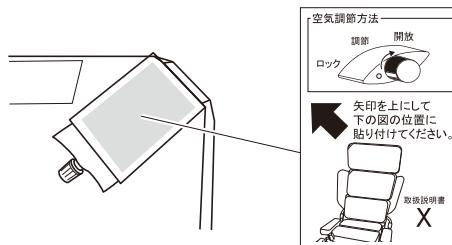
### ● クッションの取り付け位置

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・面ファスナーに糸くず、汚れ等がつくと、接着が弱くなりますので取り除いてください。</li><li>・使用者が乗車していない状態で作業してください。</li></ul>
------	--

下図に従って、それぞれのクッション (A~H) を車いす本体の正しい位置に取り付けてください。



各クッションの裏面には、識別のアルファベット(A～H)と、取付位置を示すタグが縫い付けられています。



※1 空気圧の調節が可能なクッションです。(⇒P.15 「クッションの空気圧調節」参照)

※2 位置の指定はありません。

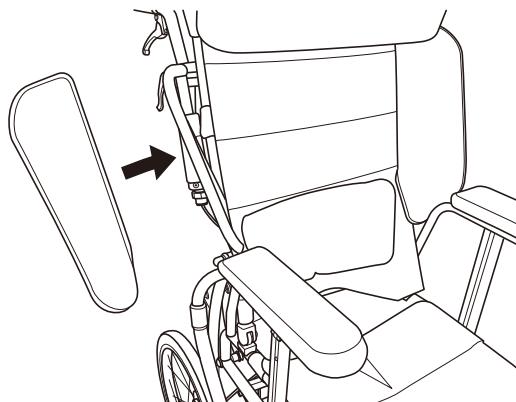
使用者の体格や状態に合わせて、ベースシートとクッションの間の、任意の位置にはさんで使用してください。

※3 アームサポートカバーは左右共通です。

## ● カバーの取り付け

### ・ショルダーサポートカバー

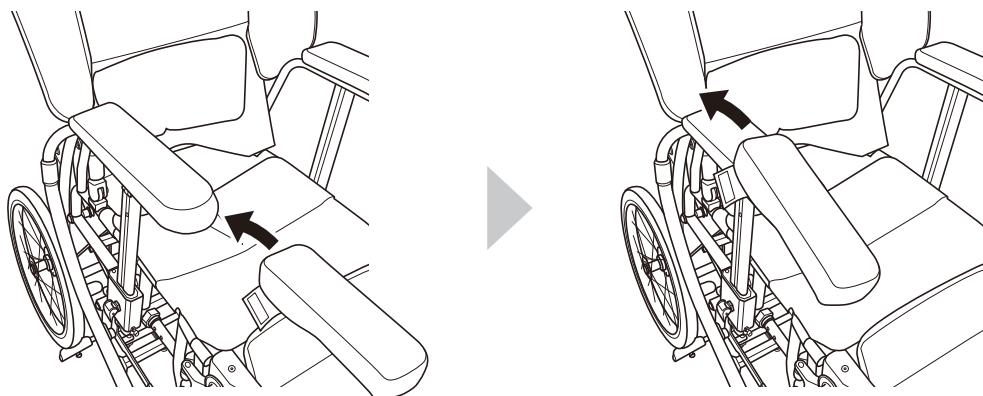
ショルダーサポートカバーをパイプにかぶせて、面ファスナーでカバーを固定します。



### ・アームサポートカバー

アームサポートカバーをアームサポートの前方から覆って、後方に移動させてかぶせます。

完全にかぶせたら、面ファスナーでカバーを固定します。



## ブレーキのかけかた

<b>⚠ 警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り降りの際および停止時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかからっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。</li> <li>車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる恐れがあります。ブレーキの効き具合が悪いときは、お買い上げの販売店へお問い合わせください。</li> <li>走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。</li> </ul>
-------------	--

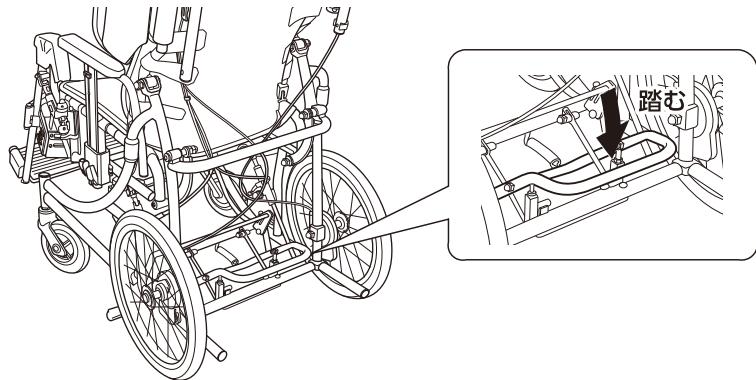
### ● 駐車用ブレーキのかけかた

本製品の駐車用ブレーキは車いすの後方、側方のどちらからでも操作ができます。

使用状況に合わせた方法をご選択ください。

#### 後方からのかけかた

介助者が、後方のペダルを踏み込みます。  
ペダルの下から足で持ち上げて元の位置に戻すと解除されます。

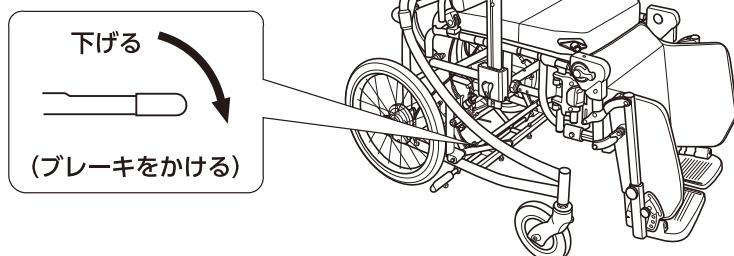


#### 側方からのかけかた

使用者が、側方のレバーを押し下げてかけます。

※カチッという音がするまで押し下げてください。

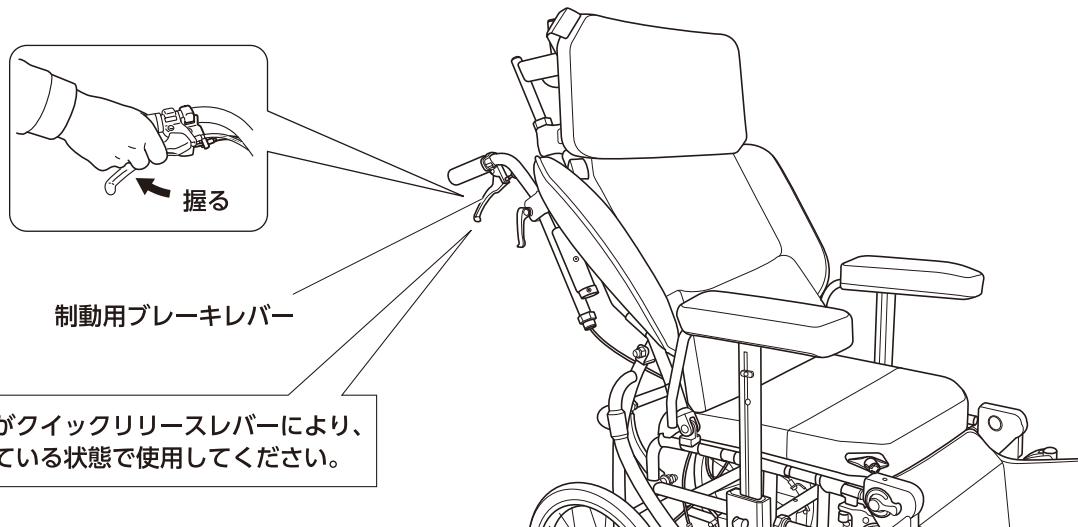
レバーを上に引くと解除されます。



## ● 制動用ブレーキのかけかた

<b>△危険</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>・急な下り坂で介助するときは、車いすを後ろ向きにして、ゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。</li> <li>・雨の日など路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。十分に注意したうえで操作してください。</li> </ul>
<b>△警告</b>	制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
<b>△注意</b>	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安：1年に一度)

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。  
ブレーキレバーを放すと解除されます。



## 乗り降りのしかた

### △警告

- ・乗り降りの際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだして大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際は、フットサポートの上に乗らないでください。転倒して、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。けがをする恐れがあります。

### ベッドから乗り移る場合

#### ● 乗りかた

- 1 車いすをベッドの横へ、平行になるように寄せます。
- 2 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 3 背シートを後ろに倒します。  
(P.16 「バックサポートの倒しかた／起こしかた（リクライニング）」参照)
- 4 乗り移る側のアームサポートを下げます。  
(P.13 「アームサポートの高さ調節」参照)
- 5 車いすとベッドの間に落ちないように注意して、ゆっくり乗り移ります。
- 6 アームサポートを上げます。

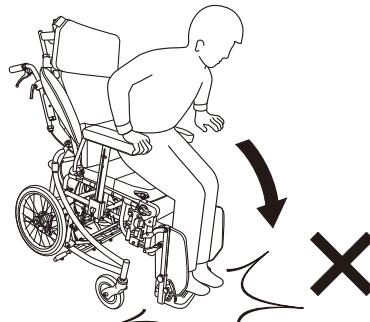
#### ● 降りかた

「乗りかた」と逆の手順で行ってください。

### いすから乗り移る場合

#### ● 乗りかた

- 1 いすの近くへ車いすを寄せます。
- 2 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 3 乗り移る側のアームサポートを下げます。  
(P.13 「アームサポートの高さ調節」参照)
- 4 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。  
※乗り移る際は、フットサポートの上に乗らないでください。転倒して、けがをするおそれがあります。



乗り移る際、フットサポートに乗らない

- 5 アームサポートを上げます。

#### ● 降りかた

「乗りかた」と逆の手順で行ってください。

## フット・レッグサポートの開閉・取り外し

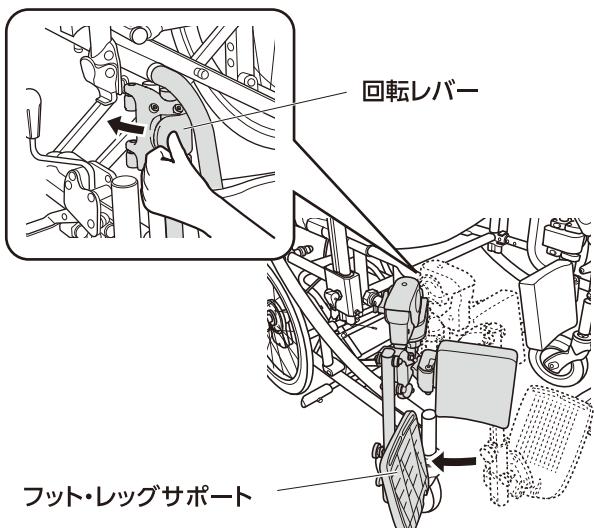
フット・レッグサポートをワンタッチで開閉させたり、取り外すことができます。車いすへの乗り降りの際は、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

<b>△警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。</li> <li>・ フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>・ 乗り降りの際は、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>・ フット・レッグサポートの開閉時、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。</li> <li>・ フット・レッグサポートを開いた状態で、車いすの操作をしないでください。</li> <li>・ フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。</li> </ul>
	<p><b>△注意</b> フット・レッグサポートの開閉・取り外し、取り付けは、使用者の脚をフットサポートから降ろした状態で行ってください。</p>

### ● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

\* フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。部品が変形して故障の原因となります。



### ● 閉じかた

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

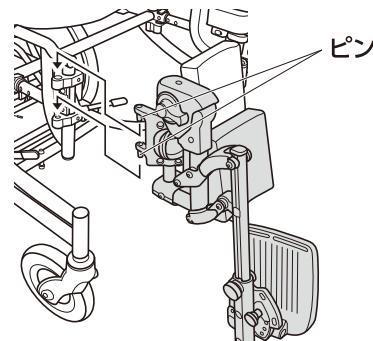
\* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。  
\* フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

### ● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

### ● 取り付けかた

1 本体フレームの回転軸穴に、フット・レッグサポート側のピンを合わせて、垂直に上からはめ込みます。



2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

\* フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

\* フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

# 各部の調節のしかた

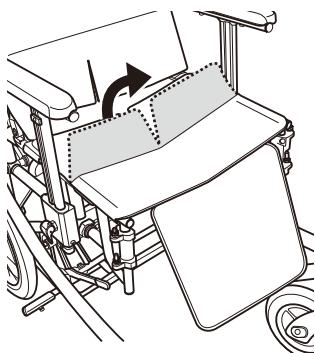
## シート奥行の調節

使用者に合わせて、シート奥行を調節することができます。

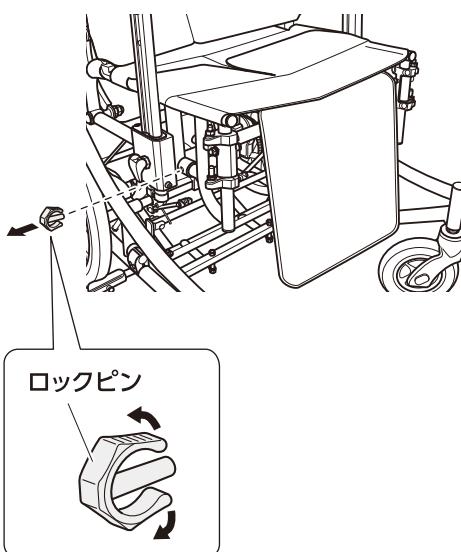
ロックピンを取り付ける穴を変えることにより、3段階に調節することができます。

- 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

- フット・レッグサポート、クッションD、E(座クッション後、前)を取り外して、座面インナーシートの面ファスナーをはがします。

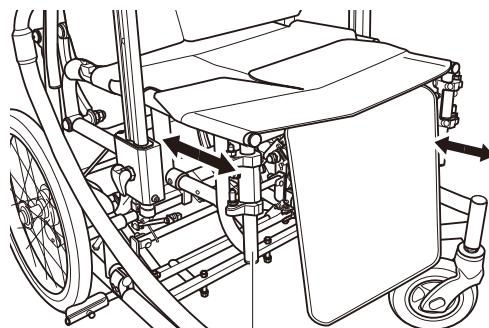


- 左右のロックピンを抜き取ります。



\*ご購入時は、フット・レッグサポートの後ろから3つ目の穴にロックピンが取り付けられています。  
(初期設定)

- フット・レッグサポートフレームを前後に動かして、ロックピンを取り付ける適切な穴の位置を決めます。



フット・レッグサポートフレーム

- ロックピンを外側から差し込みます。

- 座面インナーシートの面ファスナーを貼り合わせて、フット・レッグサポートおよびクッションD、E(座クッション後、前)を取り付けます。  
(「P.6 クッションの取り付け位置」参照)



- ご購入時の位置(初期設定)よりシート奥行を短くすることはできません。

## 手押しハンドルの高さ・向き調節

介助者に合わせて、手押しハンドルの高さと向きを調整することができます。

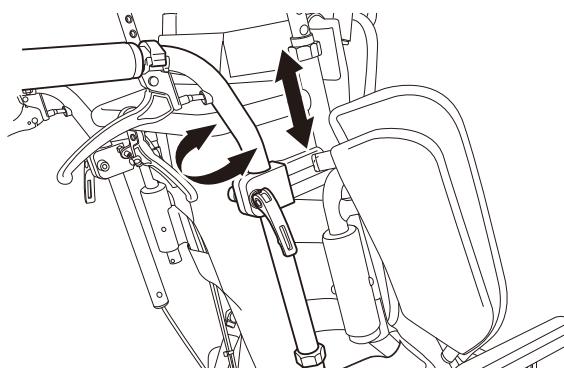
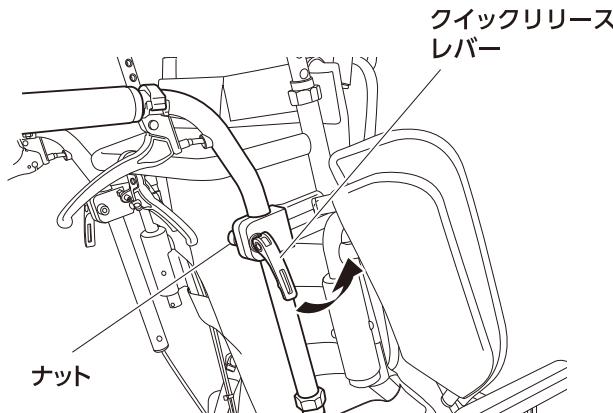
**1** 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

**2** クイックリリースレバーを引き起こしてロックを解除します。

**3** 手押しハンドルの高さと向きを調節します。

**4** 調節を終えたら、クイックリリースレバーを倒して、クランプを締めこみます。

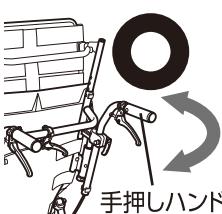
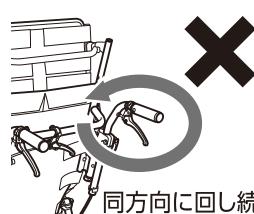
**5** 反対側の手押しハンドルも、同様に調節します。



\* クイックリリースレバーの締め付けがゆるすぎる、またはきつすぎる場合は、レバーを引き起こした状態で、レバーの反対側にあるナットを時計回り、または反時計回りに回して調節してください。

\* 調節した後は、手押しハンドルが回転しないことを必ず確認してください。

\* 介助者が車いすを押すときは、クイックリリースレバーが確実に固定されていることを確認してから行ってください。事故やけがにつながる恐れがあります。

<b>△警告</b>	<p>手押しハンドルは、車いす本体の外側を往復するように操作してください。 同方向(右回り、左回り)に回し続けて使用した場合、ブレーキワイヤーがよじれて、制動用ブレーキの動作不良やワイヤーの破損につながる恐れがあります。</p>	 手押しハンドル	 同方向に回し続けない
------------	--	---	---

## アームサポートの高さ調節

乗り降りの妨げにならないように、アームサポートを下げるることができます。

<b>△注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さ調節は、使用者の身体および衣服がアームサポートよりも内側にあることを確認してから行ってください。</li> <li>・フレームの可動部に身体および衣服をはさまないように注意してください。</li> <li>・高さ調節をした後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。</li> <li>・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。</li> </ul>
------------	---

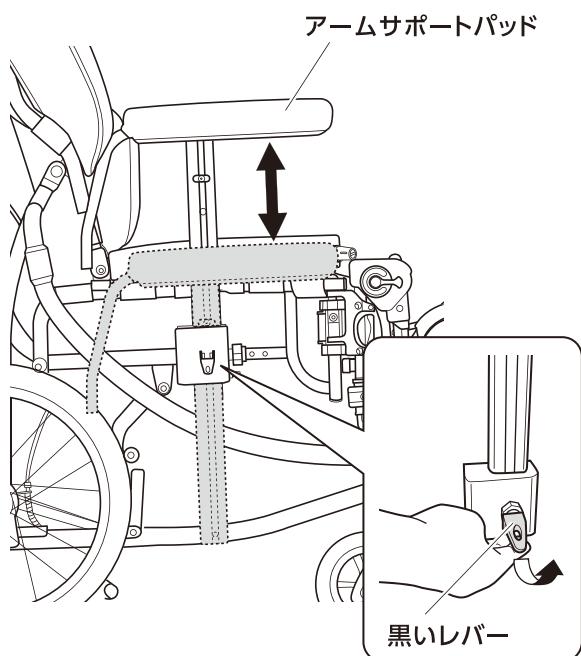
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 アームサポートパッドを支えながら、アームサポート外側の黒いレバーを引き上げてロックを解除します。

3 アームサポートパッドを上下に動かして、高さを調節します。(2段階)

4 調節を終えたら、レバーを下に倒して、アームサポートパッドを固定します。

\* 調節後、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。



△注意

レバーを解除しているときは、アームサポートが下がる恐れがあります。その際、アームサポートと車いすのフレームの間に指をはさまないように注意してください。

## ショルダーサポートの開閉

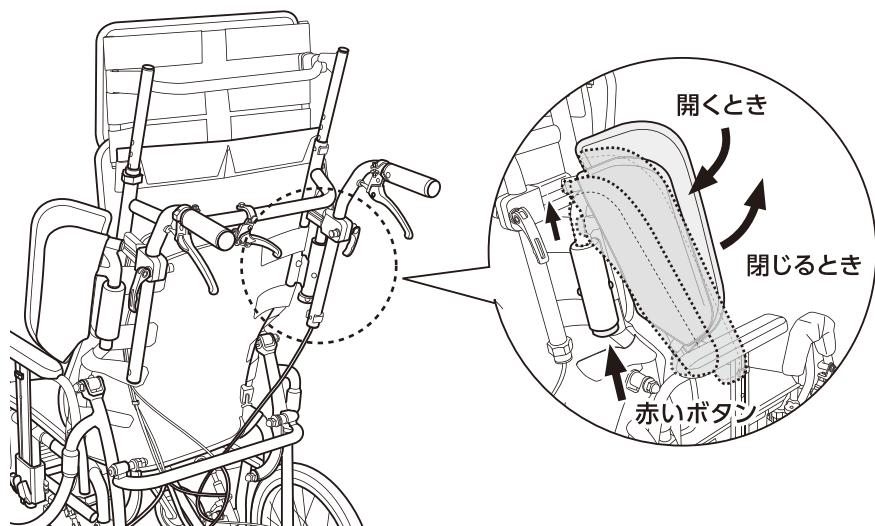
ベッド等への移乗の際、ショルダーサポートを倒すことで、横方向への移乗介助がスムーズに行えます。

△注意

移乗介助の際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

### ●開きかた

横方向へ移乗介助を行う際は、ショルダーサポート背面にある赤いボタンを押し上げながら、ショルダーサポートを後方(背面)へ倒します。



### ●閉じかた

ショルダーサポートを前方(前面)へ起こします。

\* 乗車時は、ショルダーサポートが確実に固定されていることを確認してください。

## クッションの空気圧調節

クッションは個々に空気圧を調節することができます。

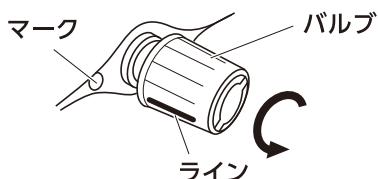
### △注意

- ・調節は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

### ● バルブについて

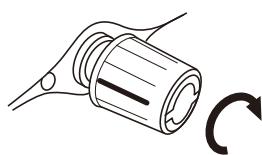
#### 【ロック状態】

バルブを反時計回りに回して、マークとラインの位置が合った状態。通常はこの位置で使用します。



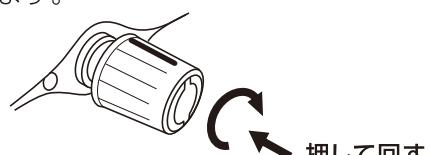
#### 【調節状態】

空気の調節をするときに使用します。



#### 【開放状態】

バルブを押しながら時計回りに回すと、着座していない状態では空気が入り、着座している状態では空気が抜けていきます。

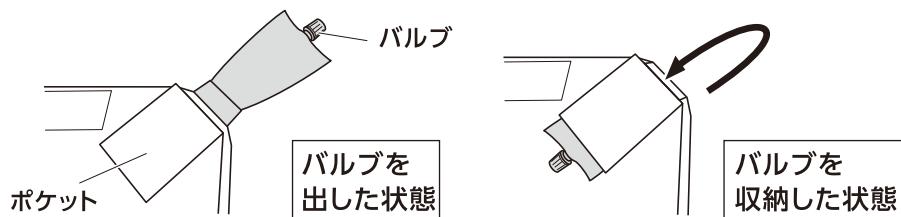


### △注意

- ・ご使用時は、調節以外の目的で【調節状態】、【開放状態】のままにしないでください。空気が抜け底付きの原因になります。
- ・クッションに過度な負担をかけないでください。クッションが破損(パンク)する恐れがあります。
- ・完全にふくらんだ状態で使用すると、クッションの効果を十分に発揮させる事ができません。使用者の状態に合わせて空気圧を調節してから使用してください。
- ・気温・気圧など環境の変化によって、クッション内の空気圧が変化することがあります。ご使用前には都度空気圧の調節を行ってください。
- ・飛行機内など、急激な気圧の変化の影響で、クッション内の空気が膨張することがあります。飛行機への搭乗前には空気を抜いておく。またはバルブを【開放状態】にしておき、使用前に空気量の確認をしてください。

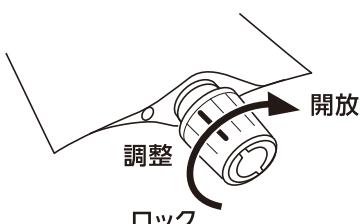
頭部クッション／背クッションにはバルブを収納できるポケットが装着されています。

空気圧の調節時以外は、バルブを折り返してポケットに収納して、バルブが飛び出ないようにしてください。



### ● 調節のしかた

- 1 バルブを【開放状態】にして、空気を入れます。完全にふくらんだ(空気音がしなくなった)ら、バルブを【ロック状態】にします。



- 2 車いすにクッションをとりつけます。  
〔P.6 クッションの取り付け位置〕参照)

- 3 使用者が車いすに乗った状態で、バルブを【調節状態】にします。

\*一度に複数のバルブを操作せず、ひとつずつ操作してください。

- 4 バルブを時計回りに少し回すと、クッション内の空気が抜け、クッションが沈みます。バルブから手を離すと【調節状態】に戻ります。少しづつ空気を抜きながら調節します。

- 5 クッションがお好みの厚さになったら、バルブを【ロック状態】にしてください。

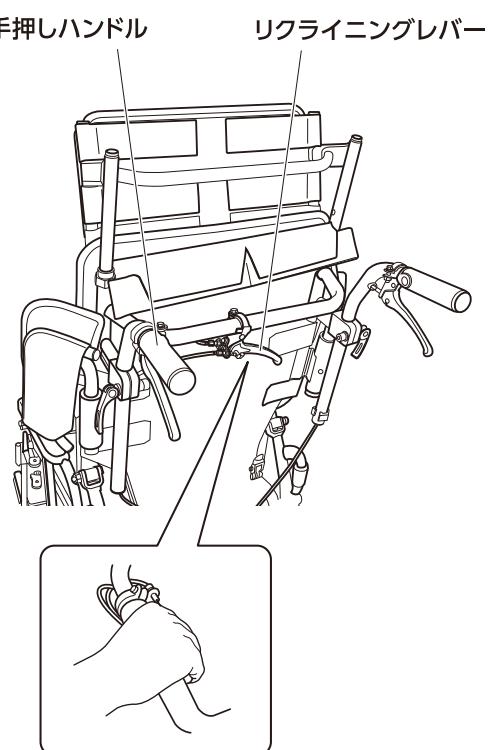
\*再度調節する際は、車いすから降りて、手順1からやり直してください。

## バックサポートの倒しかた・起こしかた(リクライニング機能)

⚠ 危険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バックサポート(背もたれ)を倒した状態のときは、使用者の上体を起こさないでください。車いすの重心バランスが崩れ、転倒、転落する恐れがあります。</li> <li>・使用者が上体を起こした状態で、リクライニング操作をしないでください。座面が急激に下がり、事故やけがにつながる恐れがあります。</li> </ul>
⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。</li> <li>・フレームの可動部に指や身体をはさまないように注意してください。</li> <li>・両側のアームサポートを上げた状態で操作を行ってください。</li> <li>・介助者は、リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。</li> <li>・リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出でていないことを十分に確認してから行ってください。使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていると、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。</li> </ul>

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

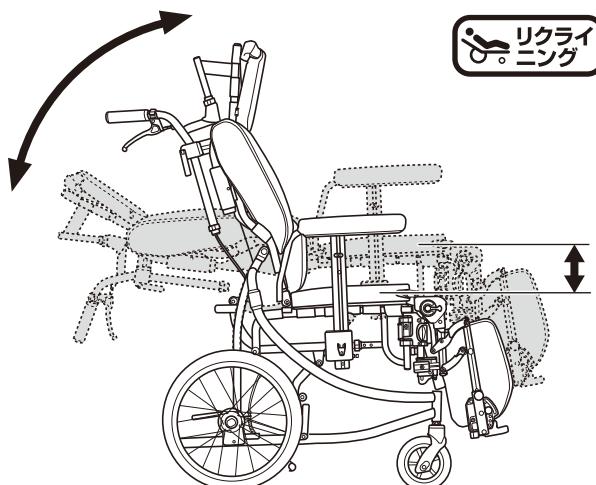
2 片手で手押しハンドルを握り、もう片手でリクライニングレバーを握ります。  
( マークが付いた緑色のレバーです。)



3 リクライニングレバーを握ったまま、バックサポートの角度を調整します。

\*バックサポートの角度は、100~170°の範囲で調整可能です。

\*バックサポートの角度に応じて、座面の高さも変わります。



4 お好みの角度が決まったら、その位置でバックサポートを止めたまま、レバーを放します。バックサポートの角度が固定されます。

\*レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

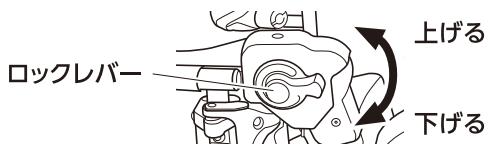
## フット・レッグサポートの角度調節(エレベーティング機能)

フット・レッグサポートをお好みの角度に調節することができます。脚を持ち上げたいときや、ひざ関節の曲がる範囲が限られている場合などに便利です。

### ⚠ 警告

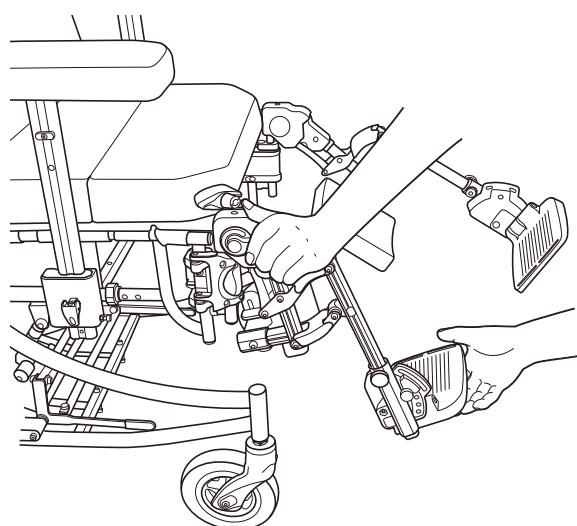
- 操作は、必ず両輪の駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- 調節の際、使用者の身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。

- 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- フット・レッグサポートに手を添えながら、オレンジ色のロックレバーを動かしたい方向へ操作します。



- ロックレバーを上げる(下げる)位置を保ちながら、フット・レッグサポートを動かして、角度を調節します。希望の角度に合わせたら、ロックレバーから手を放します。
- フット・レッグサポートを軽く動かして、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

\*反対側も同様に調節してください。



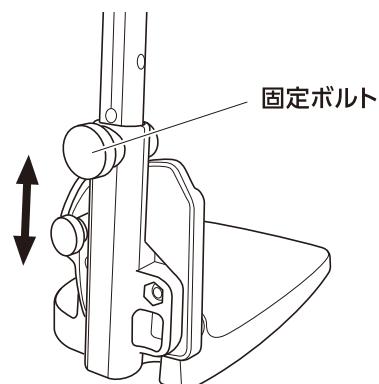
## フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。  
15mm間隔で5段階の高さに調節することができます。

### ⚠ 注意

- フットサポートは、地上より50mm以上あけた状態で使用してください。

- 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- フットサポートの固定ボルトを取り外します。  
\*ボルトは再び取り付けますので、失くさないように注意してください。
- 脚の長さに合わせて、フットサポートの高さを調節します。
- 希望の高さの穴を決めたら、手順2で外したフットサポートの固定ボルトを取り付け、締め付けます。  
\*反対側も同様に調節してください。



### ⚠ 注意

- 調節後、フットサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。

### ⚠ 警告

- 高さ調節をした後は、必ずフットサポートが固定されていることを確認してください。

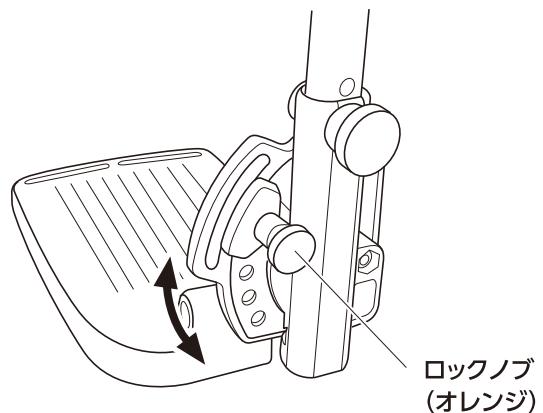
## フットサポートの角度調節

### △警告

- ・調節の際、使用者の身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 オレンジ色のロックノブを引いて、ロックを解除します。
- 3 ロックノブを引いたまま、フットサポートの角度を調節して、希望の角度でロックノブを放します。
- 4 フットサポートを軽く動かして、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。

\* 反対側も同様に調節してください。



ロックノブ  
(オレンジ)

## レッグサポートの位置調節

レッグサポートの前後、上下、左右の位置を調節することができます。

### △警告

- ・調節の際、使用者の身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。

### ● 前後位置の調節

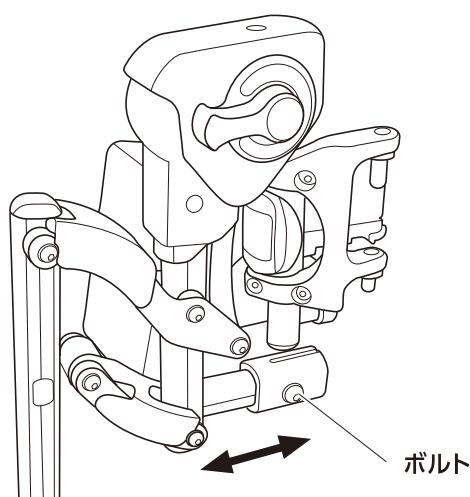
レッグサポートの前後の位置を2段階に調節することができます。

使用する工具：六角レンチ(4mm)

締め付けトルク：5.0Nm

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 レッグサポート固定ボルトを取り外します。
- 3 使用者の状態に合わせて、レッグサポートの前後位置を調節します。
- 4 希望の位置の穴を決めたら、手順2で外したレッグサポート固定ボルトを取り付け、締め付けます。

\* 反対側も同様に調節してください。



ボルト

## ● 上下位置の調節

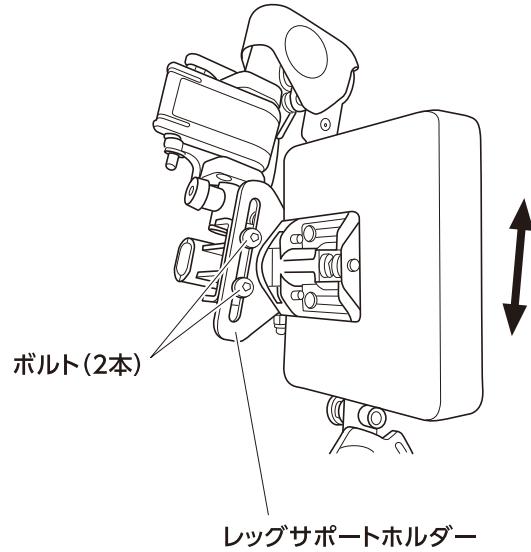
レッグサポートの上下の位置を約40mmの範囲で調節することができます。

使用する工具：六角レンチ(4mm)

締め付けトルク：5.0Nm

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 レッグサポートホルダーのボルトをゆるめます。
- 3 レッグサポートを上下にスライドさせて、位置を調節します。
- 4 希望の位置を決めたら、手順2でゆるめたボルトを締め付けます。

\* 反対側も同様に調節してください。



## ● 左右位置の調節

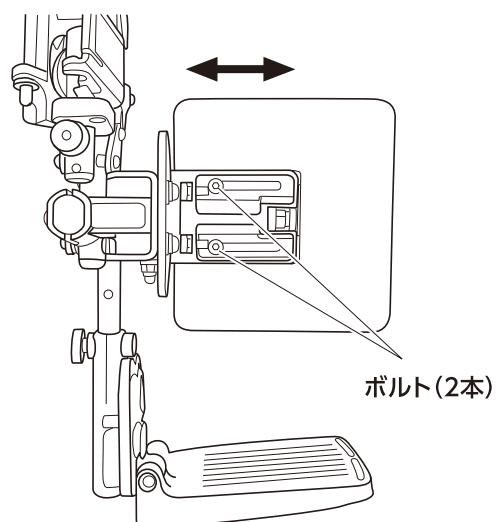
レッグサポートの左右の位置を約40mmの範囲で調節することができます。

使用する工具：六角レンチ(3mm)

締め付けトルク：1.5～2.0Nm

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 レッグサポートの裏側のボルト(2本)をゆるめます。
- 3 レッグサポートをスライドさせて、左右の位置を調節します。
- 4 希望の位置を決めたら、手順2でゆるめたボルトを締め付けます。

\* 反対側も同様に調節してください。



### △注意

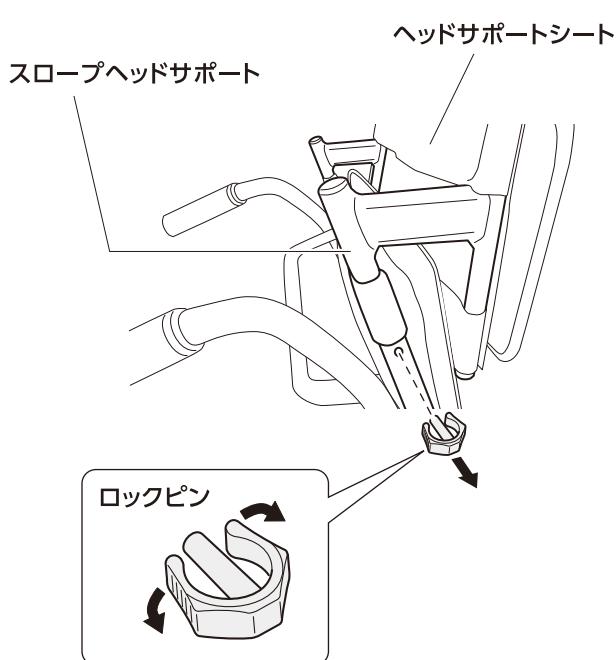
- ・調節後、レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

## スロープヘッドサポートの取り付け・取り外し・高さ調節

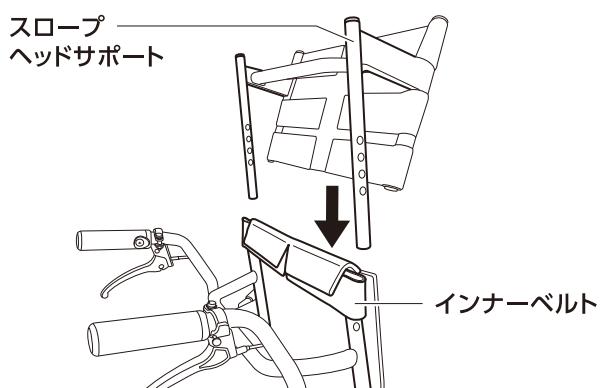
使用者に合わせて、スロープヘッドサポートの高さを調節することができます。ロックピンを取り付ける穴を変えることにより、4段階に調節することができます。

**1** 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

**2** 左右のロックピンを抜き取ります。



**3** 背インナーシートを起こして、本体フレームの背パイプ上端に、背インナーシート最上部のインナーベルトを巻き付けて、スロープヘッドサポートを本体側に差し込みます。



**4** スロープヘッドサポートを上下に動かして、ロックピンを取り付ける適切な穴の位置を決めます。

**5** ロックピンを外側から差し込みます。

\* スロープヘッドサポートが確実に固定されていることを確認してください。

# 使用上のご注意

## 保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備して、常に安全な状態で使用してください。

- \* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。
- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。  
(地上より50mm以上あけてください)
- ・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、屋外、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

### ● 駐車用ブレーキの作動確認

ブレーキレバーを操作して、ブレーキがかかるかを確認してください。

### ● 各調節部分が固定されていることの確認

各調節部分をチェックして、確実に固定されていることを確認してください。

### ● 消耗品、交換部品の確認

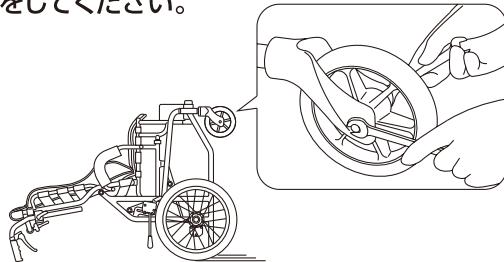
#### △注意

交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- ・それぞれ部品が交換時期を迎えたときは、お早めに交換してください。  
新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡してください。
- ・ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けますと、タイヤ内部に水分が侵食して加水分解を起こして、タイヤの劣化が早まります。お早目に交換してください。



キャスターの旋回軸やキャスター・駆動輪(主輪)・ブレーキ、各調節部等は等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



#### 消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスター	表面の摩耗が著しいとき。 しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆びが発生したとき。

## お手入れ・保管について

### ● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

### ● シートのお手入れ

- ・シートの汚れは、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによって、シート生地に毛羽が付着することがあります。毛羽が付着した際は、衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除いてください。

### ● 樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは、中性洗剤で落としてください。

#### △注意

- ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干してください。

### ● タイヤのお手入れ

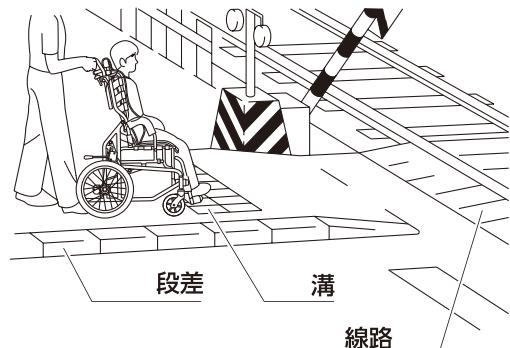
- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

### ● 保管・収納について

- ・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

## 走行上のご注意

- ・車いすは道路交通法上、歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう十分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャスターのはさみ込みには十分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せず  
にまっすぐ通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車椅子を走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オーストロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

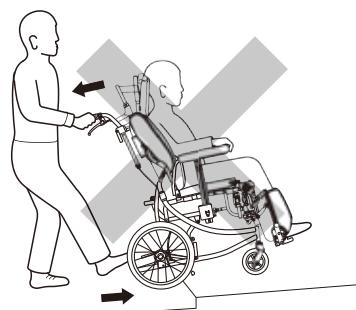
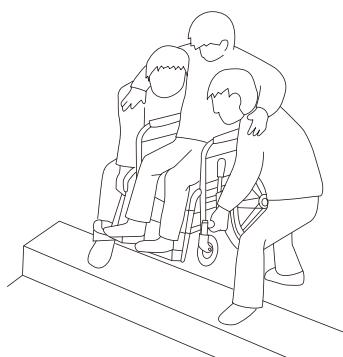


## 段の上がりかた

### △警告

段差を乗り越える際は、ティッピングバーや手押しハンドルでの操作は行わないでください。  
車いすを持ち上げる際は、持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、  
フット・レッグサポート、フットサポート、手押しハンドルなどは持たないでください。

使用者を車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側から  
しっかりと持ち上げるようにしてください。



\* 無理な力による段差の乗り越えは、  
フレームの破損につながります。

# 困ったときには

本製品をご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に、以下の項目を確認してください。

症 状	確 認 点	対 处
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャスターの回転に左右差がありませんか。キャスター軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	キャスター、主輪の計4輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	主輪のタイヤは磨耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが主輪にきちんと当たってますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛けたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。	本体や主輪とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは主輪など回転する箇所と干渉しないようにしてください。
	可動部分の錆び・磨耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
リクライニング(ティルト)の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛けたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
クッションの空気が入らない。 クッションに空気を入れてもすぐに抜ける。	クッションのバルブが開放状態になっていませんか。	バルブの位置を確認してください。 (P.15 クッションの空気圧調節 参照)
	クッションの表面に傷や破れがありませんか。	お買い上げの販売店へ連絡してください。
	バルブやバルブ付近から空気が漏れたり、常に空気音が聞こえたりしていませんか。	

# 仕様

単位mm

	機種名
	AFP-MR
フレーム材料	アルミ
シート材料	ポリエステル、PVC
アームサポートタイプ	上下式
アームサポート	ポリエステル、木製
サイドガード	なし
グリップ	PVC
バックサポート	テンション調整式
背折れ	なし
フット・レッグサポート タイプ	エレベーティング+ スイングアウト
フットサポート	スライド+角度調節式
キャスター	ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	ドラムブレーキ
ハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	足踏み式ブレーキ

測定項目	機種名
	AFP-MR
駆動輪(主輪)径 (inch)	16PU (黒)
キャスター径 (inch)	6
前座高	クッションなし 570 (背上げ時) 720 (背下げ時) クッション込 490 (背上げ時) 630 (背下げ時)
後座高	クッションなし 560 (背上げ時) 700 (背下げ時) クッション込 480 (背上げ時) 620 (背下げ時)
シート奥行	340/360/380
シート幅	420
バックサポート高 (※1)	740/760/780/800
フットサポート・ シート間距離	クッションなし 380/395/410/425/440 クッション込 460/475/490/505/520
アームサポート高	クッションなし 80/285 クッション込 0/205
全高	1200/1220/1240/1260 (背上げ時) (※2) 850 (クッション込・背下げ時)
全幅	600
全長 (※3)	1140(背上げ時) 1490(背下げ時)
重量 (kg)	25.8

※1 座からヘッドサポートフレーム上端の寸法です。 ※2 ヘッドサポートを含めた寸法です。

※3 フルリクライニング+フットサポート挙上時の最大全長は1880mmです。

## 静的安定性試験方法 (弊社ではJIS T9201 10.1.2a方式によって試験を行っています。)

キャスターが交換可能な場合、推奨するキャスター径は上記キャスター径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ(UNF 1/2-20山)仕様になります。

# アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名と故障状況を連絡してください。
- 保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

# 保証

- 保証内容につきましては、同封の保証書をお読みください。
- 保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。  
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄につきましては、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

## 製造元



〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号